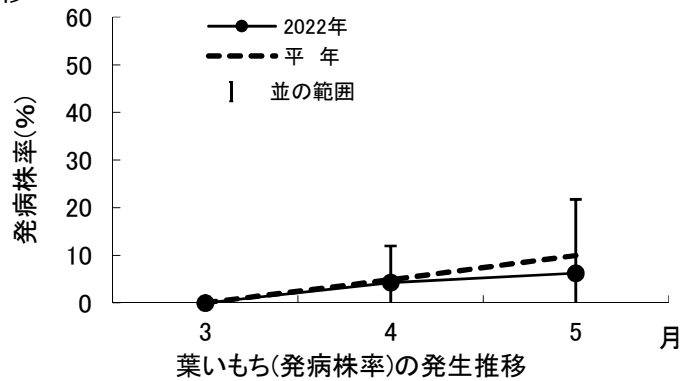


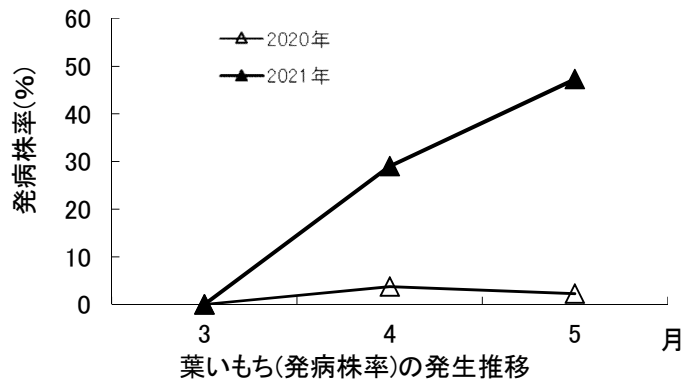
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	葉いもち病		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	↗	
	6 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年間の推移



発生ほ場率：56% (平年：39%)

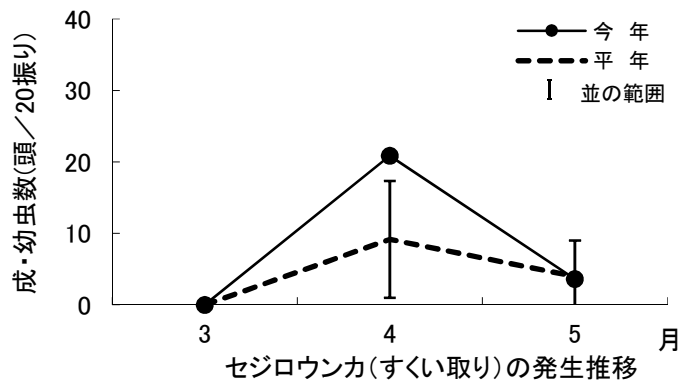
防除のポイント

- ・ 収穫後の被害わらは次作の感染源となるため、水田付近に放置しない。
- ・ 汚染もみは次作の感染源となるため、発生ほ場からは採種しない。

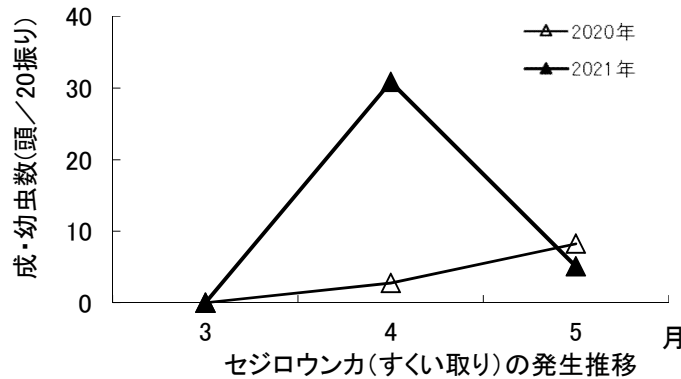
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	セジロウンカ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	-	
		6 月の発生量 (平年比)	-
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率：50% (平年：51%)

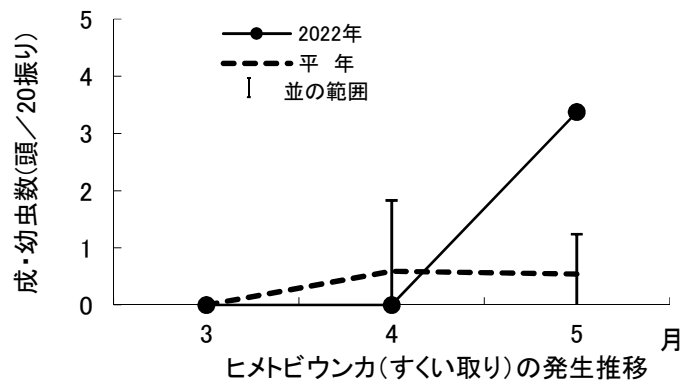
防除のポイント

・ウンカ類は株元に生息するため、薬剤防除を行う場合、株元に十分に薬剤がかかるように心がける。

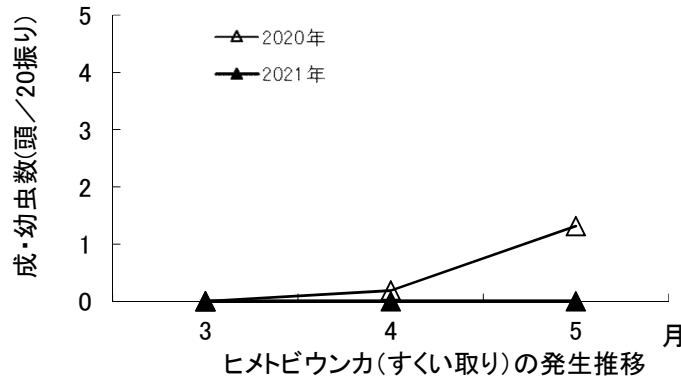
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	ヒメトビウンカ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	多	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率：69% (平年：22%)

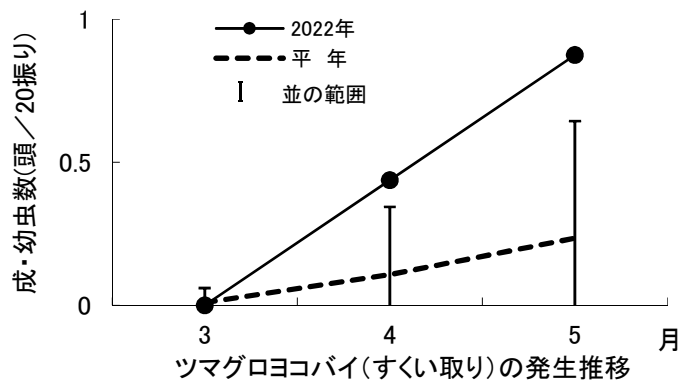
防除のポイント

・ウンカ類は株元に生息するため、薬剤防除を行う場合、株元に十分に薬剤がかかるように心がける。

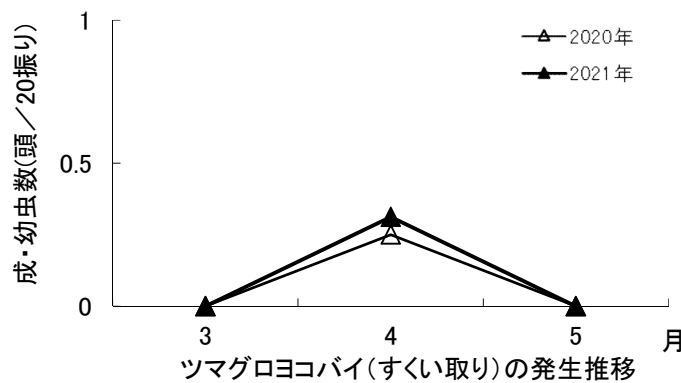
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	ツマグロヨコバイ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年間の推移



・発生ほ場率：13%（平年値：11%）

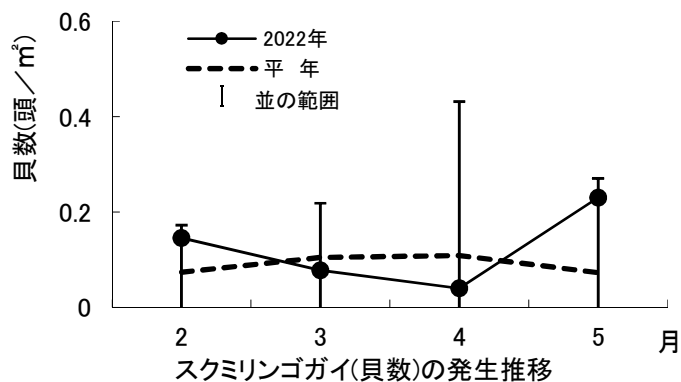
防除のポイント

- ・水田周辺の雑草防除を行い、発生源を少なくする。

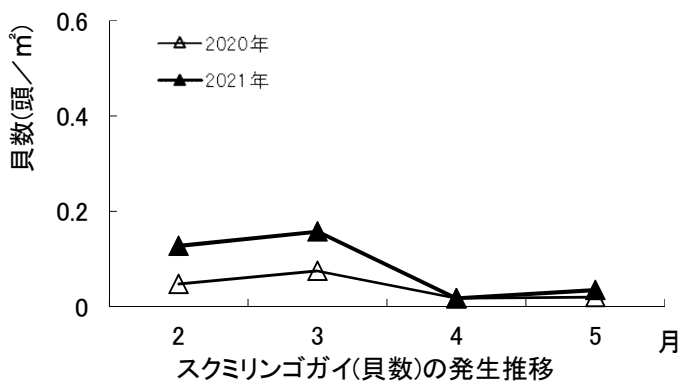
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	スクミリンゴガイ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	-	
	6 月の発生量 (平年比)	-	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年間の推移



・発生ほ場率：75% (平年値：19%)

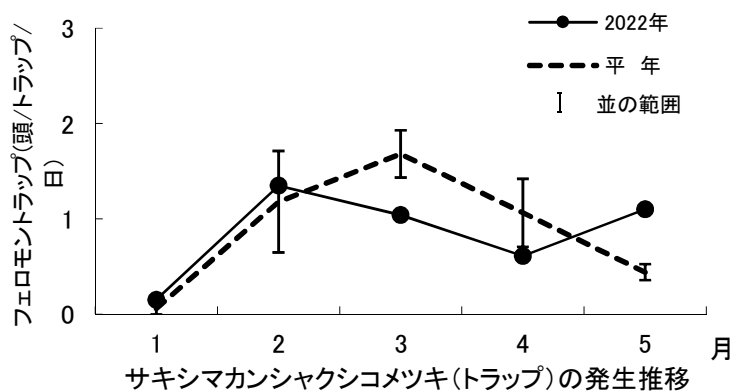
防除のポイント

- ・次作に向けた密度低減を図るため、貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。
- ・畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。

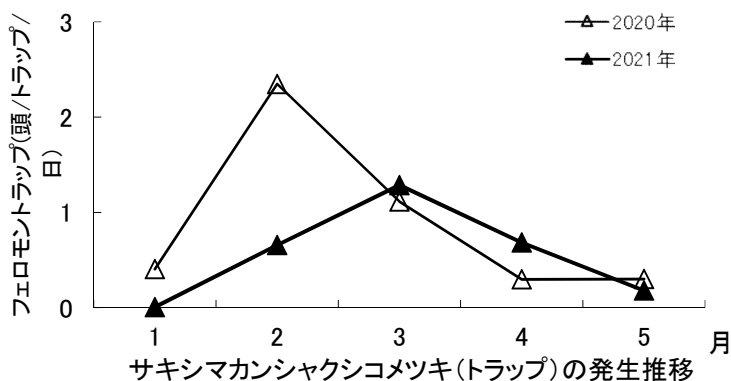
作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	カンシャクシコメツキ類		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	多	
予報	5 月からの増減傾向	-	
	6 月の発生量 (平年比)	-	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移



過去2年の推移




防除のポイント

- ・ 成虫は2月上旬～4月上旬頃から地上に出てくる。
- ・ 発生が多い地域では連作を避ける。
- ・ 植付前に植溝に粒剤を施用する。

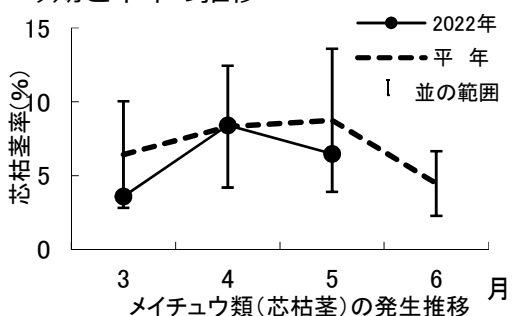


カンシャクシコメツキ類(成虫)

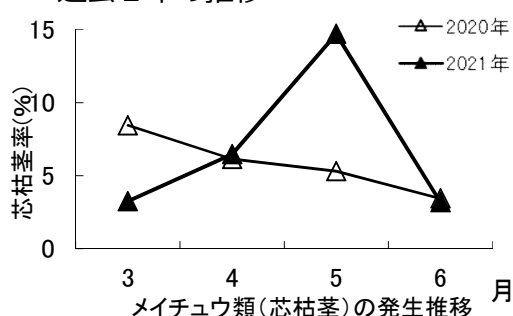
作物	さとうきび	地域	八重山群島	
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	5 月の発生量 (平年比)			並
予報	5 月からの増減傾向			↓
		6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

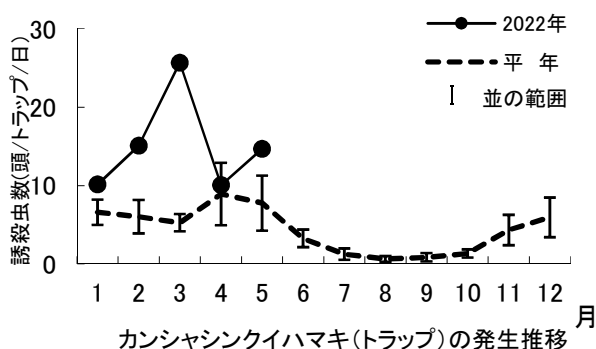
今期と平年の推移



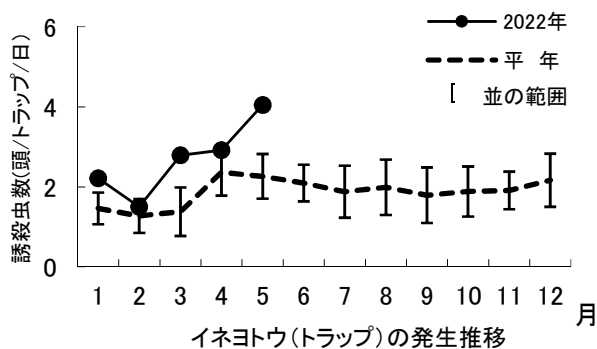
過去 2 年の推移



トラップ調査 (カンシャシクイハマキ)




トラップ調査 (イネヨトウ)



- ・ 芯枯れ発生ほ場率：94% (平年値：93%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、92% (23/25頭) がカンシャシクイハマキ、8% (2/25頭) がイネヨトウであった。

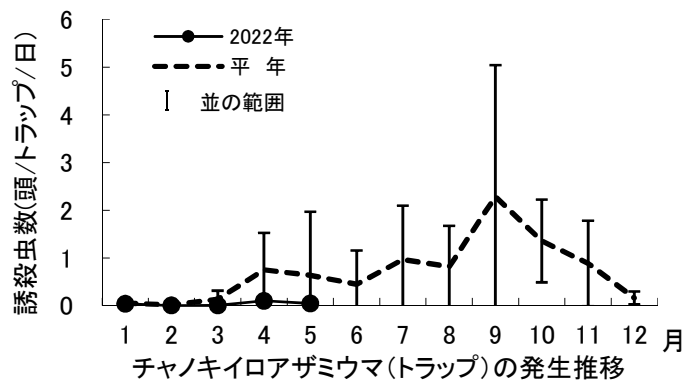
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

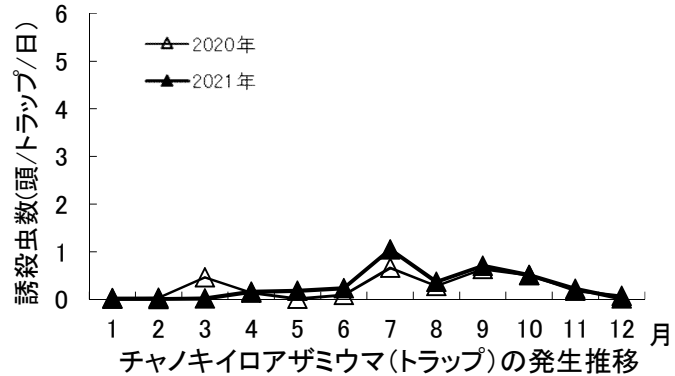
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



- ・発生施設率：80%（平年値：60%）
- ・新梢の数が基準以下のため、見取り調査のデータなし


防除のポイント

- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



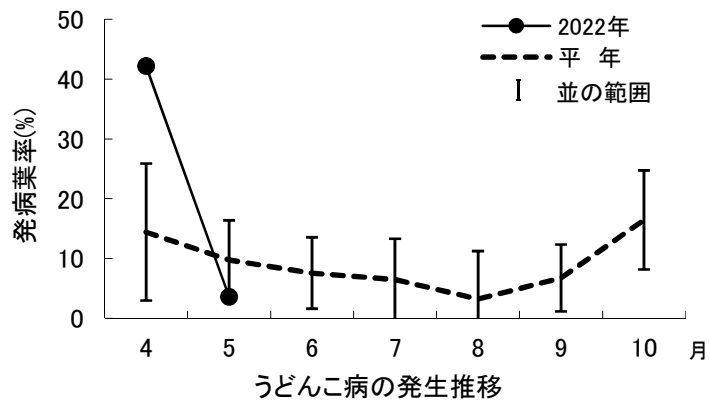
ナガエコミカンソウ



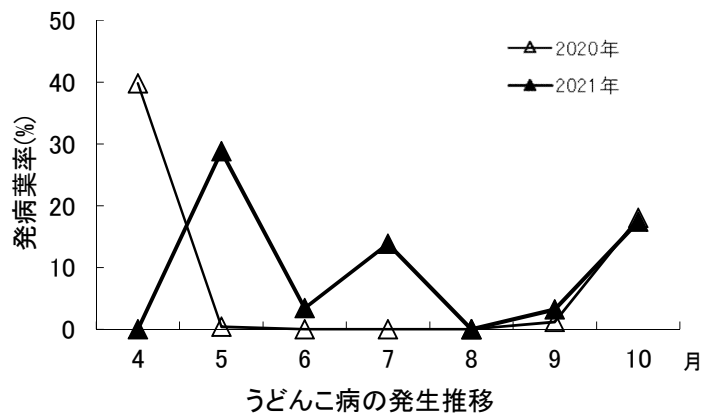
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	↘	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率：40% (平年値：67%)

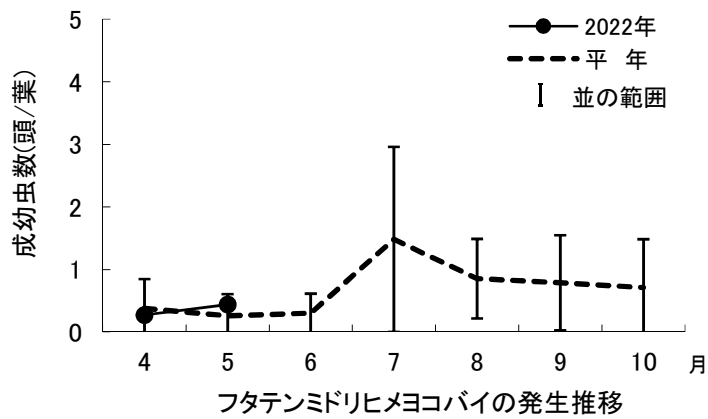
防除のポイント

- ・ 下位の罹病葉や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・ 窒素過多にならないようにする。
- ・ 草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

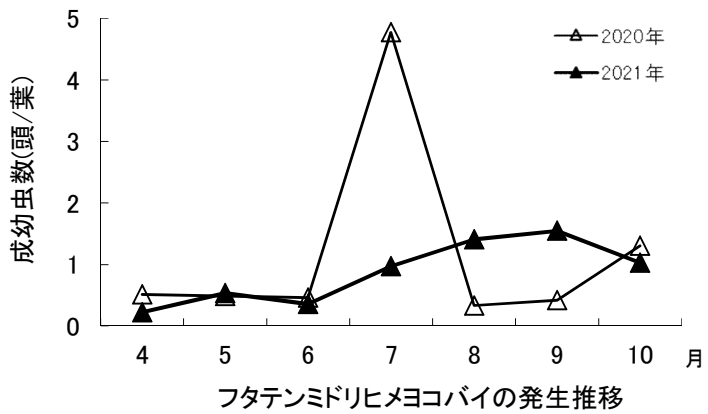
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	→	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



発生ほ場率：80% (平年値：64%)

防除のポイント

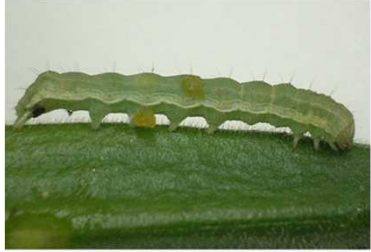
- ・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



幼虫

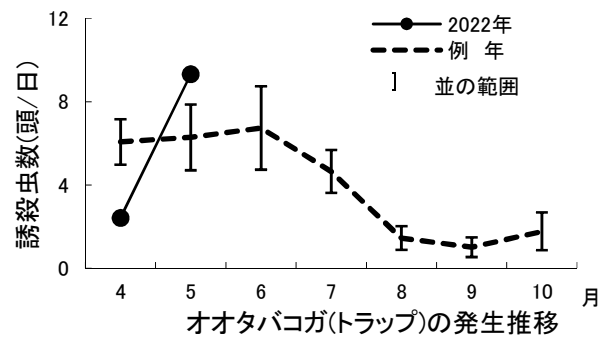
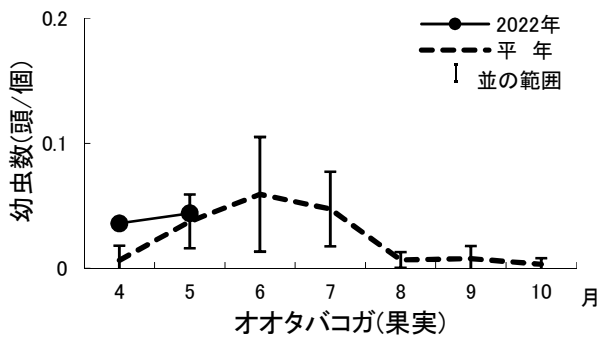


被害葉

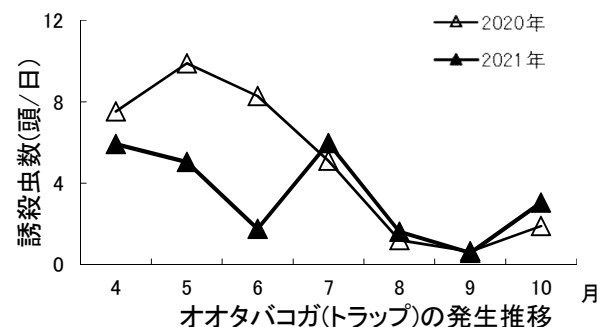
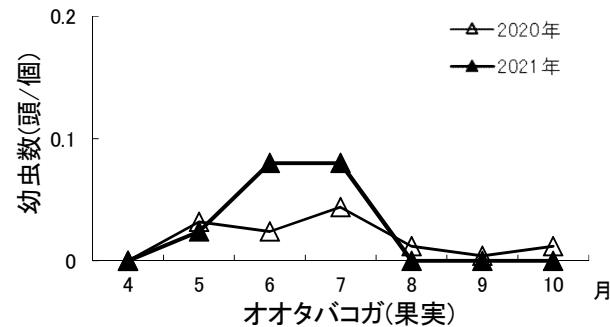
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	③ オオタバコガ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	↗	
		6 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



発生ほ場率：80%（平年値：60%）

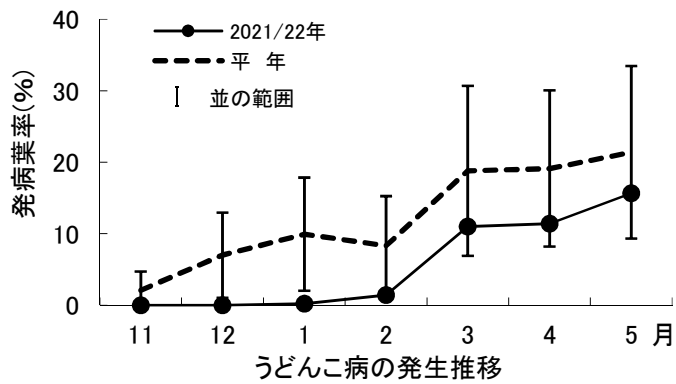
防除のポイント

- ・ ほ場をよく観察し、幼虫の早期発見に努め、見つけ次第捕殺する。
- ・ 中齢幼虫以降になると蕾・果実内に食入するため、食入前の若齢幼虫のうちに薬剤防除する。
- ・ 被害果や摘芯、摘花した腋芽・花蕾等の残さは、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。

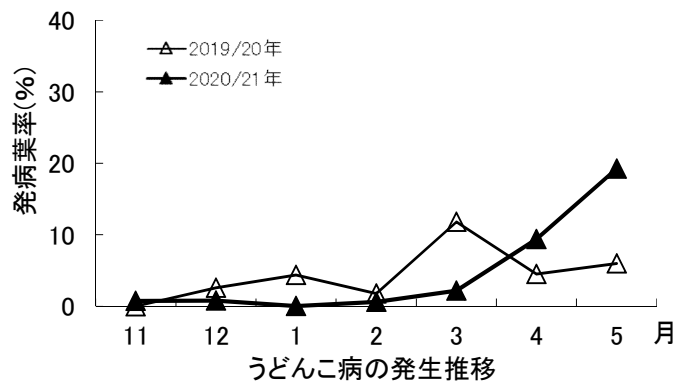
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移



過去 2 年の推移



・発生施設率：67% (平年値：73%)

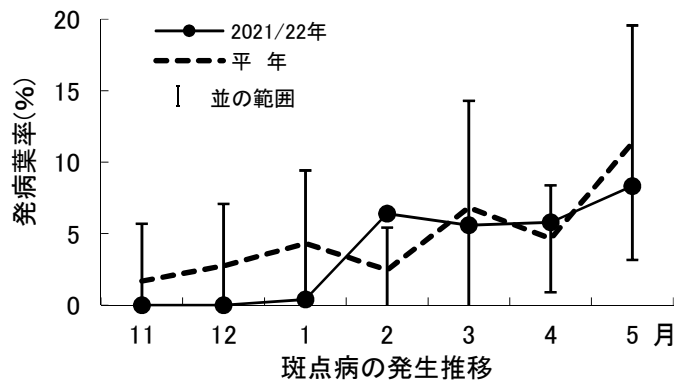
防除のポイント

- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

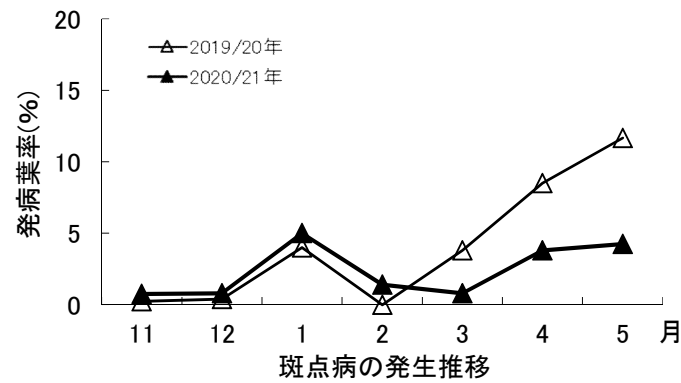
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	斑点病		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年の推移



・発生施設率：100% (平年値：68%)

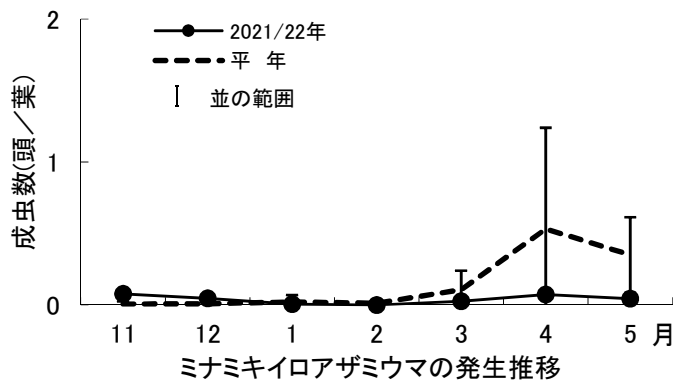
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。またビニールの破れは補修する。

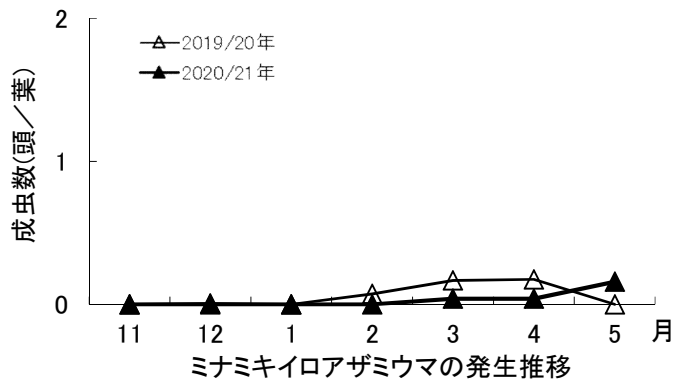
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移



過去2年の推移




・発生施設率：67%（平年値：68%）

防除のポイント

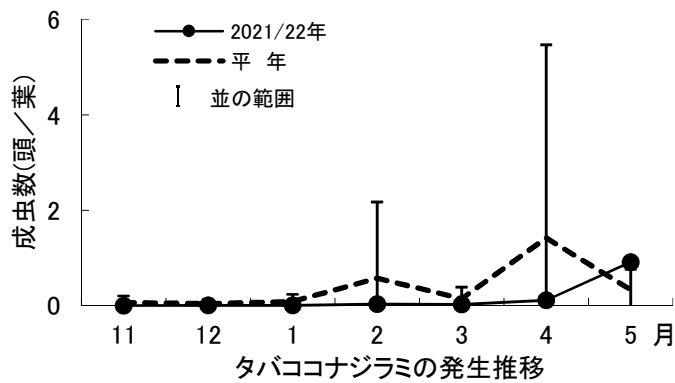
- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



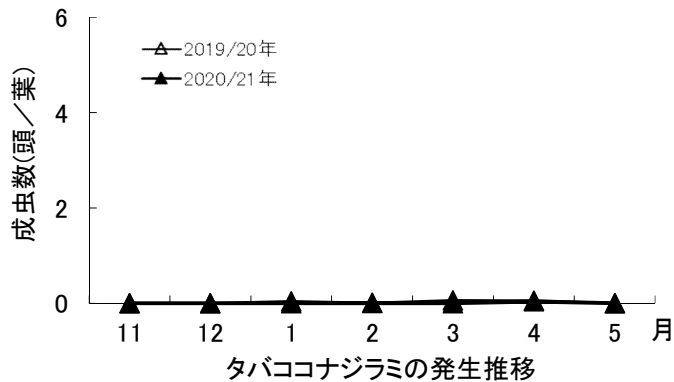
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	タバココナジラミ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移



過去 2 年の推移



・発生施設率：67%（平年値：36%）

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。